キスの日。
2014/05/23

猫柳ハヤ

髪

ひっそりと横たわる君の柔らかい髪を梳き、そっと唇を寄せる。もう伝わる事の無い、この感情。
「ずっと、すきでした……、」

#思慕

額

あの人と幸せになる君。もう逢わないから、最後にひとつ贈らせて。誰にも見つからない物陰で、そっと額に最初で最後の口づけを。
「しあわせに、ね、」

#祝福

瞼

バスを待つ時間、少し俯く君に見とれて引き込まれる。瞼に唇で一瞬触れて、慌てて誤魔化した。
「なんて、ね、」
この想いは伝えられない。

#憧憬

耳

「ねえ、いいよね、」
そんな台詞と一緒に耳元を君の唇が掠める。僕はもう、頷く事しか出来ない。

#誘惑

頬

「忘れ物、」
別れ際に急に手を引かれる。思い当たる事がなくて少し首を傾げると、君の顔が近づいてきた。絡んだ指先に力が籠もると同時に、頬に温かい君の唇が触れる。吃驚する僕とは対照的な、君の満面の笑み。

#満足感

唇

息継ぎも赦されないほど、全てを君に委ねる。麻痺した思考と、崩れそうな躯を繋ぎ留めるために君に縋るしがない。
「全部、貰うから。」
返事をする筈の僕の唇は、再び君に塞がれていた。

#愛情

喉

晒した喉に軽く歯を立て、それから力を入れて舐め上げる。態と音を響かせて口づければ、堪えた熱と吐息が零れた。
「我慢出来ない、」

#欲求

首筋

白い首筋に顔を埋め、執拗に痕を残す。所有印という名の鬱血。散らされた紅に君が泣いても、僕は僕を止められない。
「あの人には、渡さない。」

#執着

背中

向こうを見たままの広い背中に、キスをひとつ。
「此処に居ても、良いんだよね、」
目を合わせなくて良いから、いいよって、云って。

#確認

胸

「僕のもの、」
云いながら指先で、君の髪を撫で、頬に触れ、首筋を辿る。最後に辿り着いた胸に、シャツ越しに強く口付けた。心も心臓も、僕のものだ。

#所有

腕

背中から抱き締めて両腕を拘束する。力を入れていないのに逃げ出さないのは、僕を少しは想ってくれているのですか。
「離したくないって云いますよ、」
緩く抱いた腕に、ゆっくりと唇で触れた。

#恋慕

手首

「ねえ、」
上目遣いに見上げて、俯く君を促す。強く握りしめた両の拳を、僕の両手でそっと包み込んだ。君の肩が跳ねる。理性が途切れる。怯えるように伸ばしてくる君の手首を、煽る視線を向けたまま音を立てて吸った。

#欲望

手の甲

やっと君に声を掛けることが出来た僕に、君はとても気さくに微笑む。
「僕も君と仲良くなりたかったんだ。」
嬉しさのあまり舞い上がる僕の手を取ると、その手の甲に君は優しい口付けを落とした。

#敬愛

掌

「それじゃあ、」
素っ気なくそう云って、ドアノブに手を掛けた君を咄嗟に引き止める。振り払われる腕。縋る思いで掴んだ君の掌に、最後の口付けをした。本当の想いを込めて。

#懇願

指先

日の光の届かない暗い部屋の中、僕は銀の十字架だけを頼りに進む。
「その勇気だけは誉めてあげるよ。」
突然現れた黒い影が僕の全身を絡め捕り、掬い上げられた指先に小さなキスをした。

#賞賛

腹

寝息を立てる君の、規則正しく上下する胸を撫でる。そのまま滑らかに肌を辿り、そのまま覆い被さるようにして腹に口付けた。君は薄らと目を覚まし、僕を見る。
「僕の全部を、食べて欲しいんだ。」
君は少し身体を起こすと、ゆっくりと口を開いた。

#回帰

腰

きつく抱かれて身動きが取れない。ぴったりと密着した肌と肌が熱い。腰にあった腕が強く締められて、思わず喉声が漏れる。
「このまま閉じ込めてしまおうか、」
生温い吐息が腰に触れたと同時に、其処に痛いくらいの口付け。離れられない、幸せな痛み。

#束縛

腿

大きく開かせた足の間に割り入り、腿の内側の白く滑らかな肌に舌を這わせる。快楽で縛られた君には、もう逃げることなど出来はしない。
「さあ、いこうか、」
撫でさすった腿にはキスの痕と同じ数の華が咲く。君を悦楽の淵に沈めてあげよう。

#支配

脛

「キスして。」
目の前に傅く君に命令する。唇を噛んで耐える君の頤を爪先で持ち上げ、冷たい視線で見下ろした。君は全身を震わせて近寄り、苦痛に歪んだ表情で、僕の脛に唇を押し当てた。噛み締め過ぎて切れたのか、脛に残る一筋の赤が君の拒絶を現していた。

#服従

足の甲

君が望むままに、君の欲するがままに、君の為に、君が全て。僕は僕の人格すら必要無いのだから。その証にと無造作に投げ出された細い足首を取り、手のひらに乗せる。
「主、よ。」
白磁の石膏でできた足の甲に誓いの口付けを。

#隷属

爪先

棺の中の君は何よりも神々しく、何よりも美しい。色鮮やかな花片も君を引き立てることしか出来ない。誰の手も届かない場所へ逝く君へ髪から順にキスを。最後に爪先へ口付け、棺は閉じられる。
「さよなら、またね。」

#崇拝